

## 令和6年度＜自己評価表1：各部等の取組（資料1）＞

【評価基準】 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	目 標	本年度重点目標	評価	成果 (○) と課題 (●)
小 学 部	小学部の教育課程に基づく教育活動を推進し、児童一人一人の可能性を伸ばしながら、集団生活でのルールを知り、学校や家庭でより豊かに生活するために必要な資質・能力を育てる。	○国語・算数における年間指導計画を活用した授業や、高学年を対象にした習熟度別グループ学習の実践、自閉症児が多い学部の実態に応じた自立活動・授業の工夫等を行うことで、授業改善に取り組む。	A	○国語・算数では、年間指導計画を活用した授業や習熟度別グループ学習に取り組んだ。次年度への課題もあるが職員間で目標を共有して授業を行うことができ、児童にも互いに刺激し合って学習する等良い変容が見られた。 ○自立活動では、課題別グループで授業に取り組んだ学年もあり、良い実践は各学期の報告会で共有を行った。
	【知識及び技能】 ・日常生活に必要な基本的生活習慣を身に付け、健康な身体づくりに取り組む。 ・ことば・かずなどの学習の基礎となる知識、自分の意思を身近な人に伝える力を育てる。	○学年間、学部間で連携・協力した指導を行い、児童に夢や願いをもって主体的に学ぼうとする態度や、集団生活における自律心を育成する。	B	○機会を捉えて学習や集団生活のルールを児童に分かりやすい形で示し、意識して取り組めるようにしている。 ●複数年での活動や場の共有、中学部を知る新単元の設定で、児童に上級生への憧れの気持ちをもつ様子が見られた反面、学部が2棟にまたがり、他学年と接する機会を意識して作らないと学部内での交流が難しくなった。
	【思考力、判断力、表現力等】 ・自分や友達の良さに気づき、友達と仲良くしようとする態度を育てる。 ・身近な人との関わりの中で、して良いことと悪いことが分かり、決まりを守ろうとする態度を育てる。	○コンプライアンスの遵守とともに、児童・職員の人権に対する意識を高め、互いを大切にする教育を行う。	A	○悪い行動を注意するだけでなく、小さなことでもその都度称賛することを繰り返すことで、児童の自信につながり、良い行動が増えてきている。友達の良いところを探す学習や命の大切さを教える授業にも取り組んだ。
	【学びに向かう力、人間性等】 ・毎日の生活や学習に、意欲や自信をもって取り組む態度を育てる。	○1学期は、けがやストレス対策、授業場所の工夫を行い、2学期以降は、環境の変化に対する配慮や新学習室の活用を行うことで、児童が安心・安全に過ごすことができるようにする。	A	○事前に児童と教室の下見をしたり危険箇所のチェックを行ったりしたことで、教室移動がスムーズにできた。 ○9月以降は、念願の学習室が各フロアにでき、グループ学習やクールダウン等に有効に活用できている。 ●旧運動場のスペースは児童が学習したり自由に遊んだりする場所として残してほしいという要望が強い。
		○家庭や関係機関と連携・協働しながら、根拠のある指導を行うとともに、学校教育についての情報発信や理解・啓発に努める。	A	○連絡帳の他、毎月の学年・学部通信の発行・発信、授業参観の実施等で情報発信を行い、理解啓発に努めた。 ○保護者面談、ケース会議、外部専門家相談等で、家庭、福祉、医療等の関係機関と連携した指導を行った。

## 改善策について

重点目標の番号	改善策
1	・国語・算数、自立活動の指導計画、指導案などを、職員が共有しやすい形で残し、活用する。
2	・特別活動や行事等で、学部内の児童が交流する時間を設定する。

	目 標	本年度重点目標	評価	成果 (○) と課題 (●)
中 学 部	<p>中学部の教育課程に基づく教育活動を推進し、生徒一人一人の能力や意欲を高めながら自律心を育て、学校や地域でより豊かに生活するために必要な資質・能力を育てる。</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会で生活するために必要な基本的な生活習慣や生活態度を身に付け、自ら健康な心身づくりに取り組む態度を育てる。</li> <li>・集団生活におけるルールや約束を理解させるとともに、生活を豊かにする各教科等の知識・技能を身に付け、周りの人に自分の意見や考えを伝える力を育てる。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を大切にできる気持ちや他者を思いやる気持ち、人間関係を形成する力を育み、地域との交流などを通して、互いに理解し合い、共に地域や社会で生きる基礎を育てる。</li> <li>・学校や地域での生活において、自ら進んで考えたり、我慢したり、正し</li> </ul>	○生徒一人一人の実態や発達段階を踏まえ、生徒の実態に応じたICT機器活用の充実を図る。	A	<p>○自分たちで調べたり、編集の仕方を学んだりして、いろいろな場面で活用できた。使うべき場面と、使ってはいけない場面の使い分けの指導に力を入れている。</p> <p>○登校できていない生徒が、週2回15分程度、担任とチャットを使った文字でのやり取りを行うことから、週1回登校し対面でのやりとりができるようになった。</p>
		○人権に対する生徒・職員の意識の向上を図るとともに、自他の良さに気付き、認め合いながら自己肯定感を高める教育活動を実践する。	A	<p>○学年で人権に関する学習を取り扱い、自他のことについて学習する機会ができた。</p> <p>●学校内では、友達同士の関わりの中での距離感（プライベートゾーン）が近くなり、身体接触が多くみられる。発達年齢に配慮しながら実年齢に応じた指導の必要性について、共有しながらの指導を心掛けている。</p>
		○自立活動における指導内容の充実と専門性の向上に努める。	A	<p>○自立活動を担当する教師と学級担任とが、生徒の実態を共有しながら、指導内容の具体的な検討ができた。グループでの指導を学級でフィードバックし、生徒の変容が見られた。</p> <p>○各グループで実態に応じた学習に取り組んでいる。</p>
		○学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動を進めながら「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に努める。また、実践に基づいたより良い教育課程編成に努める。	B	<p>○校内研究で取り組んだ内容が活かされ、教育課程を改善する視点を共有できた。</p> <p>○社会科、理科、職業家庭科の新しい教科書を使った指導を設定した教育課程に向けて内容の検討作業ができた。</p> <p>●行事が錯綜し、時間割の変更などで、継続的な指導が難しい時期がある。</p>

<p>い行動をしようとする態度を育てる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に主体的に取り組む態度や課題に集中する力を身に付け、積極的に集団参加する態度を育てる。</li> </ul>	<p>○生徒が安全で安心して活動し、将来をイメージできる学びの実現に努める。</p>	A	<p>○授業参観時に合わせて進路研修会を開催したことで保護者の参加率が上がった。保護者からのアンケート結果も好評だった。</p> <p>○将来の自立、就労などを見据え日々の活動の中に分かりやすい説明と情報提供を心掛けている。</p>
---	--	---	--

## 改善策について

重点目標の番号	改善策
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的な発達と身体の成長のバランスが取れず、幼さが残る行動が問題になる学齢である。個に応じながらも、集団を意識した行動ができるように、保護者と連携して継続的な指導を行う。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科、理科、職業家庭科の時数について、他の教科の内容とのバランスを考慮しながら、実践的に検証する。</li> </ul>

	目 標	本年度重点目標	評価	成果 (○) と課題 (●)
高 等 部	<p>高等部の教育課程に基づく教育活動を推進し、生徒一人一人の能力や意欲を最大限に生かしながら自立心を高め、より豊かな社会生活・職業生活を主体的に営む上で必要な資質・能力を育てる。</p> <p>〈普通科〉</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活全般において、社会的自立に必要な生活習慣や身辺処理能力の定着を図る。</li> <li>・社会生活におけるルールや約束事を理解させるとともに、生涯を通じて生活を豊かにするために必要な各教科等の知識・技能を身に付け、自分の意思や考えを伝える力を育む。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の気持ちや考えを尊重し、豊かな人間関係を形成する力を育む。</li> <li>・豊かな社会生活を見据えて、目標と責任をもって自ら自律的に判断し、主体的に行動する態度を育てる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味や関心の幅を広げ、卒業後の生活を豊かにしようとする</li> </ul>	<p>○ICT機器を活用した指導を工夫し、学習意欲や学習効果の向上を図る。</p>	B	<p>○ICT機器を活用により、分かりやすい授業づくりにつながった。また、書字が苦手な生徒がタブレットPCではスムーズに文字を入力できたり、言葉でのやりとりが難しい生徒がPCでコミュニケーションをとったりすることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●1年生のタブレットPC導入に時間が掛かっている。保護者に機器を設定してもらう機会を、可能な限り早く設ける必要がある。</li> <li>●SNSトラブル防止やスマホ依存防止の観点から「情報モラル」に関する指導を充実させる必要がある。</li> </ul>

<p>意識を高めるとともに、苦手なことや努力次第でできることにも挑戦しようとする態度を育てる。</p> <p>〈就業サービス科〉</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的・職業的自立を目指し、各教科等の取組を通して一般就労に必要な生活習慣の定着を図る。</li> <li>・社会生活・職業生活におけるルールやマナーを理解させるとともに、必要な専門的知識や技能、コミュニケーション能力を育む。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立的態度や他者の気持ちや考えを尊重し、望ましい人間関係を形成する力を育む。</li> <li>・豊かな社会生活・職業生活を見据えて、目標と責任をもって自らの規範意識に基づき自律的に判断したり、主体的に行動したりしようとする態度を育てる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味や関心の幅を広げ、卒業後の生活を豊かにしようとする意識を高めるとともに、常に自己の課題を理解して解決を図ろうとする態度を育てる。</li> </ul>	<p>○小・中・高等部一貫した教育課程の編成と生徒の実態に対応した学習グループの検討を行う。</p>	A	<p>○学習グループについて検討し、必要に応じて再編成を行いながら指導を進めることができた。</p> <p>○Dグループの学習は、実態に合わせた指導が順調に進んでいる。</p>
	<p>○コンプライアンスの遵守を図り、互いを認め合い尊重し合う意識を高める取組を推進する。</p>	B	<p>○心の教育やSHRにより、自分や他者を認め合ったり、思いやりたりする心を育むことができた。</p> <p>●生徒間のトラブルも時折見られるため、引き続き指導が必要である。</p>
	<p>○現場実習等を通し、社会体験の充実を図るとともに、保護者と連携した生徒の特性に応じた進路指導の充実を図る。</p>	B	<p>○現場実習を通して、進路に関する学習が充実した。生徒の課題等も明らかになり、今後の指導につなげていく。</p> <p>○普通科2年が新たに進路に関する行事(ワーキングフェス)に参加し、企業就労を目指す生徒の学習を深めることができた。</p> <p>○●生徒の進路実現のために、生徒や保護者に対して、引き続き情報提供に努める。</p>
	<p>○安全で安心できる教育環境の整備と設備の充実を図るとともに、環境美化に努める。</p>	B	<p>○校舎増築により、学習ホールや個別に対応できる教室が確保できるようになった。</p> <p>●作業班の学習環境(空調がない)により体調不良の生徒がいたため、学習内容や学習環境の検討が必要である。</p> <p>○●係活動等で校舎美化に努めることができた。まだ十分でない箇所もあり、また、生</p>

			徒の意識を向上させる必要もあるため、引き続き指導を行う。併せて、職員の意識も高める。
--	--	--	--

## 改善策について

重点目標の番号	改善策
①	①情報モラルに関する学習の充実に向けて、「職業」や「LHR」でどのように取り扱うか、検討を進めて来年度の教育課程に反映させる。
⑤	⑤暑さ対策については、扇風機等を使用したり、別の教室に移動したりしながら、可能な範囲で学習環境を整える。それでも難しい場合は、学習内容の検討を行う。

	目 標	本年度重点目標	評価	成果 (○) と課題 (●)
高 等 部 対 馬 分 教 室	※本校高等部目標に準ずる。	○夢や願いの実現に向けて粘り強く取り組む生徒の育成を目指し、道徳教育と進路指導の充実を図る。	B	○進路指導部を中心に進路開拓を行い、島内で10社程度の企業から現場実習の受入れ等の承諾を得ることができた。生徒の進路選択の幅を広げることができた。また、「進路のしおり」を作成し、保護者・職員へ配付した。今後あらゆる機会に活用し、進路指導の充実を図ってきたい。 ●道徳教育については、今年度は「教育活動全体を通して」の実践・評価を行ったが、どのような指導実践を行い、生徒にどのような力をつけさせたのかについて評価することが難しかった。
		○一人一人の教育的ニーズを踏まえた授業改善及び効果的なチーム・ティーチングの在り方について検討する。	B	○経年研修における授業研究を全教諭参加で実施した。その場で授業改善やチーム・ティーチングの在り方について検討したことについて職員間で共有し、日々の授業に生かすことができた。 ●どの教科においても、同じような指導体制でのチーム・ティーチングが行われている。
		○ICT機器を有効活用した指導の充実と、学習意欲や学習効果の向上を図る。	B	○ICT機器を活用した授業が多く見られ、生徒たちの操作スキルや学習意欲が向上してきた。 ○島外で実習を行った生徒と Teams を活用し、日々の振り返りなどを行うことができた。 ●Teams やキーノートなどはよく活用されているが、その他のアプリの活用があまり見られない。

	○対馬市教育委員会等と連携を深めながら、対馬市における特別支援教育の理解・啓発及び充実を図る。	A	○対馬市特別支援教育(TSUNAGU)研修会では、対馬市教委と協働して研修会等を開催した。夏の研修会では、岩永竜一郎先生を講師として、リモートによる研修会を実施した。対馬市の教育関係者が多数参加され、特別支援教育の理解と啓発を図ることができた。
	○本校事務室・対馬高校との連絡を密に図り、教育環境改善への取組を推進する。	A	○中庭の除草作業を分教室の生徒・職員で定期的に行い、また、夏季休業中には、対馬高校の生徒・職員にも呼び掛けて一緒に環境美化に努めることができた。 ○本校及び対馬高校事務室とは、密に連絡を取ることができており、教育環境改善に協力いただいている。

## 改善策について

重点目標の番号	改善策
①	① 年度初めに道徳の指導内容と評価について、全職員で共通理解を図り、指導実践を行う。
②	② ティーム・ティーチングの在り方についての例を提示し、生徒の実態や学習内容に応じた効果的な指導を実践できるように教科会等で検討する。
③	③ 各教科等における指導において、生徒にとって学習効果が得られるアプリの購入について、教科会等で検討する。

## 令和6年度＜自己評価表2：各分掌部等の取組（資料2）＞

【評価基準】 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
教 務 部	①学校教育目標を達成するために、教育計画の企画立案及び連絡調整を図り、効果的な教育活動の推進に努める。 ②教務事務を的確に処理し、学校運営の円滑化を図る。	①教育課程編成に係るスケジュールの共通理解を一層進め、次年度の教育課程編成について、各部間の系統性を意識して整備する。	B	○校内研究でも、各部間の系統性について深める内容のものもあり、各部での検討時に共通理解を図るなどしながら、教育課程編成を進めることができたと思う。 ○他部の教育課程を意識することが増えたように思います。また、編成スケジュールの共通理解は、学部会で早めに示すことができた。 ●年間指導計画の検討は毎年行うが、教育課程そのものの見直しはないのか。 ●部内では、計画的に教育課程編成に向けた検討や作業を進めることができたが、他部との系統性やつながりを意識するための取組は不十分であった。
		②校務事務支援システム運用に対し、各種マニュアルの改善及び運用マニュアルを基にした円滑な運用を進め、作成を円滑に行うための仕組みの整備を目指す。	B	○校務事務支援システムの運用2年目になり、ある程度先生方も慣れてきたのもあり、作業をスムーズに進められるようになったのではないかなと思う。 教務主任から注意事項等の必要事項は要所で確認がなされているため、特に問題なく運用できていると思う。 ○運用では、単票形式になったことで提出しやすくなった。(高等部) ○教務内規として、分かりやすく作成していただいた。システム入力など参考

			<p>になっている。</p> <p>○年度初めに説明を行った。提出物がある場合は早めに学部職員に記入の仕方を伝えることでスムーズに運用できた。</p>
--	--	--	---

## 改善策について

重点目標の番号	改善策
①	教務部員の平均値は「3.3」であったが、●が付された2項目について、教務部3学期反省で詳細に検討し、次年度の重点取組事項の文面に反映させる。（「編成スケジュール」と「校務事務支援システム」の部分で、「教育課程表の改善に向けた取組」と「他部との系統性」の2点で更新する。）

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
研究・研修部	<p>①学校教育目標に掲げる資質・能力の育成を目指し、一人一人の児童生徒に応じた指導・支援の充実を図るため、各学部・寄宿舎が一体となって研究を推進する。</p> <p>②一人一人の職員の専門性向上を目指し、校内における研修会や研究授業等の企画及び運営を行う。</p> <p>③教育センター講座をはじめ、県内外における各種研修会等の情報発信を行い、積極的な参加を促すとともに、効果的・効率的な研修報告会の企画・立案を行う。</p>	①「令和の虹の原型学校教育の構築」を校内研究のテーマに据え、「教育課程の改善」、「指導法の充実」といった本校の教育的課題の改善に取り組むとともに、学校の指導力向上を目指す。	A	<p>○教育課程改善につながる内容をまとめ、教務部に引き継ぐことができた</p> <p>○自閉症児への対応やICT活用などの実践について、グループ内で指導方法の検討、校内実践発表での周知等を通じ、指導力向上の一助となったと考える。</p>
		②初任研・経年研・中堅研等の研修機会の設定と授業研究会の充実を図る。	A	<p>○年度当初に初任研、経年研修の本校での基本方針について周知した。方針通りに取り組むことができた。また、授業研究会でも意見交換が多く見られた。</p> <p>●3学期の実施の研究授業があった。</p> <p>●「特別の教科道徳」の内容に対応した指導案の様式がなかった。</p>
		③オンライン等を活用した研修会の充実を図り、職員の専門性の向上を図る。	B	○筑波大学のオンデマンド研修受講を申し込み、個々のニーズに応じて研修ができる環境を整えることができた。



			●オンライン教材を用いた研修は、個人で受講する形式だったため、各自の裁量となっていた。
--	--	--	---

## 改善策について

重点目標の番号	改善策
② ③	②できるだけ早い時期に研究授業や授業研究会を実施できるよう、実施状況を確認し、係から呼びかけを行っていく。 ②指導案の様式を見直し、必要に応じて新規に作成する。 ③実施方法に関して、オンラインでの研修動画を集合形式の研修会に活用する。また、計画立案に生かしてもらうために、各分掌に研修動画について周知する。

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
生活・生徒指導部	①児童生徒一人一人が自分を大切にしながら学校生活を送り、集団の一員として適応能力の向上を図る指導を行う。	①児童生徒一人一人が充実した学校生活を送ることができるように、学校生活アンケートや行動観察による実態の把握を行い、いじめや問題行動等が発生しないような支援や指導に努める。	B	○今年度から全学部で学校生活アンケートを実施した。ヤングケアラー、いじめ等の問題行動は見られなかった。 ●アンケートの様式について、児童生徒の実態によっては質問内容の理解が難しく、回答が難しい箇所があった。職員へのアンケートを実施し、反省を基に様式を変更していきたい。
	②基本的な生活習慣の確立を図りながら、社会的規範意識の涵養に努め、問題行動等を未然に防止する。			
	③児童生徒が登下校や学校生活において、安全かつ安心して活動できるよう、安全教育(交通事故、犯罪への対応等)の徹底を図る。	③交通安全教室、携帯電話・スマートフォン安全教室、不審者対応訓練等を実施し、スクールサポーターと連携しながら安全教育の充実を図る。	B	○ブラインド形式での不審者対応訓練を実施したことで、緊張感のある訓練になった。また、危機管理マニュアルの再確認ができた。
	④児童生徒自らがチャレンジ精神をもって、学校を活性化させていく活動ができる児童生徒会を目指す。			

			●スクールサポーターとの事前打ち合わせを計画的に行えたが、体調不良等で急遽、日程変更をして実施した。
		④挨拶運動、集会活動、委員会活動などの児童生徒会活動や学校行事を積極的に行い、児童生徒が自主的に活動し、親睦を図るよう努める。	A ○各学部の集会や委員会活動は、児童生徒会が中心となって予定通り集会を実施することができた。 ○挨拶運動は、3回（7月、9月、2月）に実施できた。活動の様子もHPに掲載し、情報発信ができた。

## 改善策について

重点目標の番号	改善策

	運営方針	重点取組事項	評価	成果（○）と課題（●）
防災対策部	①地震・津波・豪雨等の自然災害や火災等から児童生徒を守るため、事前の危機管理（体制整備、点検、避難訓練）、発生時の危機管理（初期対応、二次避難）、事後の危機管理（安否確認）、引き渡しと待機等についての組織的対応の推進を図る。 ②災害発生時、本校が避難所を開設する際の体制整備を行う。	①緊急時の手順、役割分担等、実際に機能するための避難訓練の充実と、教職員一人一人安全管理意識の向上を図る。	B	○避難訓練については、マニュアルに沿って実施計画を作成し、訓練することができた。反省で上がった意見を踏まえて、次年度の訓練やマニュアル作成を行う。
		②ろう学校との共同訓練及び校舎増築に伴う各種訓練の見直しを行い、その課題の解決を図る。	B	○新高等部棟の避難経路を作成し、地震、火災避難訓練を実施することができた。 ○●ろう学校との共同訓練については、その必要性について両校で検討し、行わないことになった。
		③災害時の備品、備蓄品の洗い出しと管理をする。	B	○今年度、簡易トイレの缶を購入し、小中学部棟階段下倉庫に保管している。 ○今年度は給食で災害食のカレーを試食し、同じものを購入した。給食で災害食の試食を次年度以降もするかど

			うかは、今後の検討事項。
--	--	--	--------------

## 改善策について

重点目標の番号	改善策
②	ろう学校との共同訓練は行わないことになったが、今後も両校の避難方法や避難場所に着いて話をしていく。

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
教育環境整備部	①安心、安全で健康な職場づくり、児童生徒の豊かな心と健やかな体の育成のために4S(整理、整頓、清掃、清潔)活動を促す。 ②事務室と連携しながら、校舎内外の施設設備の整備・充実に努める。 ③環境教育を意識し、ごみの減量や分別、節電などの省エネ環境の充実に努める。	①毎月の安全点検では、各個人に割り当てた点検表と遊具の点検の二つを実施し、速やかに管理職からの確認をもらう。また、事務室と連携して校舎内外の整備に当たる。	B	○安全点検の修理箇所は、直せる箇所は部員で即時対応し、業者対応の箇所は事務と連携して対応した。 ○新校舎完成後に、運動場の遊具等の安全点検を再開した。
		②校舎増築工事中の安全な教育活動に向け、学校全体で環境整備に取り組む。また、新高等部棟完成後は、環境整備と清掃等のルールの周知徹底を図る。	B	○校舎増築工事中に伸びた植栽の剪定などを行った。また、完成後は、安全な校内の運転の仕方の周知徹底を図った。 ●新高等部棟の清掃のルールを検討しているところである。
		③毎週水曜日は職員室清掃であることを引き続き意識できるよう、各部署で声掛けを行い、必要な清掃用具を準備する。	B	○職員室掃除の当番表の改定を夏休みに行い、実施しやすいようにした、また、掃除道具を整理・準備した。
		④通常のごみや資源ごみなどが正しく処分されているか係で点検し、分別処理の意識を高める。	B	○分別の判断に迷う物については、事務に相談し廃棄できている。 ●年度末に向けて、個人の物は各自で処理するようにごみ減量を促していく。

## 改善策について

重点目標の番号	改善策
①	学校設備等の経年劣化に伴う不具合などが、安全点検で数多く挙げられている。教育環境整備部員で修理などできる部分是对応しているが、多忙を極めていると同時に、手が回らない状況である。施設設備の整備を担う人などの配置を検討できないのだろうか。

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
体育・健康部	①個々の能力や特性に応じた身体活動を通して、個々の課題に気づき、総合的な体力の向上と心身の調和的発達を目指す。	①学校における食の安全と衛生面に対する意識を高めるとともに、食に関する指導の年間計画などを授業や給食、掲示等を活用し、食育活動の充実に努める。	B	○4月に食に関する指導の全体計画及び年間目標の共通理解を図り、年間を通して各部において、授業、給食委員会活動等で食育の充実に努めた。 ●職員の食育に対する意識は十分とは言えず、今後も、学校全体に向け、啓発を行っていく必要がある。 食育の視点を知っている職員42%
	②健康や安全、衛生面に対する意識を高め、健康の保持増進と基本的生活習慣が確立できるように努める。	②健康や衛生面に対する意識を高めるとともに、手洗いやうがいなどの定着を図るなど、感染症等防止対策の徹底や健康の保持増進、基本的生活習慣を確立できるように努める。	B	○朝の会、集会、保健など、機会を見つけて指導に当たるようにした。 ○感染症要望対策として、4月に手洗い、うがいなどの基本的な対策は継続するようにお願いした。保健だよりで必要性を伝えたり、感染症が広がってきたときに、声掛けを行ったりした。 ●繰り返し指導していく中で、手洗い、うがいなど、正しい取組の仕方を身に付けさせていくことが課題である。 ●2学期末にインフルエンザ等の感染症の広がりが見られた。
	③児童生徒が安全で楽しく活動できるように体育設備・用具などの整備に努める。 ④児童生徒が自らの食生活について考える習慣を身に付け、生涯にわたって健康な生活を送ることができるよう食育学習の充実に努める。	③朝の運動や体育、保健体育の時間において、学習活動時に活動量を確保したり、ランニングなどの準備運動に計画的に取り組みませたりすることで、体力の向上を図る。	B	○各部において、朝の運動、体育など各時間を用いて、対応した。 ○準備運動など、授業で行う種目に必要な動きを取り入れ準備運動を実施した。 ●室内での活動時は、人数が多く、ランニングなど、十分な運動量の確保が難しいこともあった。

## 改善策について

重点目標の番号	改善策
①	4月に「食に関する指導の全体計画及び年間目標」の共通理解を図るだけでなく、2学期の調理実習前にも「食に関する指導の全体計画及び年間目標」を確認し、指導に当たるように体育健康部から働き掛けるようにし、先生方の意識を高めていきたい。
②	1学期の給食前の手洗い時に、クラスで手洗いの仕方について、確認する時間をつくるように体育健康部で学部働き掛け、手洗いの定着を図りたい。まず正しい手洗いの仕方を身に付けさせたい。

	運営方針	重点取組事項	評価	成果 (○) と課題 (●)
進路指導部	<p>①児童生徒の障害の状態や特性、能力、性格等を把握し、適性の発見と伸長に努め、一人一人のニーズや発達段階に応じた進路指導を系統的・発展的に行う。</p> <p>②児童生徒の将来の社会的・職業的自立を目指すために、担任・保護者及び地域社会や各支援機関との連携を図りながら、進路指導体制の整備・効率化を図る。</p>	①「キャリア・パスポート」を活用した小・中・高一貫したキャリア教育の在り方を検討する。	B	<p>○キャリアパスポートの内容を検討し、次年度からキャリア教育全体計画の育てたい力と内容を合わせるようにした。</p> <p>●キャリアパスポートの課題や改善点について、小・中・高で話し合いをもつ予定だったが、できなかった。</p>
		②現場実習、職場体験実習、進路学習等において、関係機関と連携し、効果的な進路指導を行う。	B	<p>○実習では、多くの福祉事業所や企業の協力を得て、実施することができた。関係機関との情報交換も行うことができた。</p> <p>○福祉事業所説明会で、中学部の職場体験の事業所開拓をすることができた。</p> <p>●実習先が固定されており、新規企業の開拓があまりできなかった。</p>
		③児童生徒の進路先につながる企業や事業所等の情報提供の充実を図る。	B	<p>○小・中学部保護者向けに進路研修会を実施し、B型事業所と生活介護について知る場を設けることができた。</p> <p>○授業参観や行事等の機会に、生徒がまとめた「実習報告書」を掲示することで、作業内容や活動の様子など、本校生徒が実際に現場実習に行った企業や事業所の情報を提供することができた。</p> <p>○●福祉サービス事業所説明会は大村市在住の保護者にはたくさん参加していただき、情報提供できたが、その他の市町村の保護者にとっては、有益</p>

			な情報提供になっていないようだった。
--	--	--	--------------------

## 改善策について

重点目標の番号	改善策
②	②大村市と連携して、福祉サービス事業所、企業説明会を計画している。実習や雇用の機会を増やすために地元企業を中心に啓発を図る。
③	③進路だより等で進路に関する情報提供を充実させる。

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
情報文化部	①文化的行事の企画・運営を行い、児童生徒が生き生きと自己表現できる環境を作る。 ②児童生徒の作品など、学習活動の成果を総合的に生かし発表する場を設ける。 ③視聴覚機器・機材及び図書を整備に努め、児童生徒が学びやすく、教師が授業を行いやすい環境を作る。 ④情報機器を活用し、情報教育の推進及び教員の業務の効率化を図る。 ⑤情報機器の管理やセキュリティの保守を行うとともに、個人情報の危機管理について職員への周知や研修を行う。	①児童生徒が生き生きと表現できる文化的活動の企画運営を行うとともに、児童生徒の作品などの掲示環境を整える。	A	○高等部虹のまつりでは、各学年等の実態に応じた学習発表を行うことができた。訪問コンサートでは、プロのピアニストの演奏に触れる貴重な学習の機会となった。
		②校務を中心としたクラウドサービスの活用を進めるとともに、情報資産を取扱う上での職員の情報セキュリティに対する意識の向上を図る。	B	○会議、研修等の資料配布をクラウド配信で行うことが増え、職員のクラウド利用に関するスキルが向上した。情報資産の取り扱いについても、個人情報掲載承諾書を確認する習慣が浸透してきている。 ●校務だけでなく、授業等でもクラウドサービスの活用を進めていく必要がある。
		③年間を通した児童生徒用タブレットパソコンの持ち帰りを実施するとともに、指導者用端末を活用した職員のICT機器活用スキルの向上に努める。	A	○児童生徒用タブレット端末持ち帰りに関する規定を改訂し、日常的な持ち帰りを実施することができた。学部別の職員研修を実施したことで、学部の実情に応じたICTスキルの向上につながった。

## 改善策について

重点目標の番号	改善策
②	「ICTデータベース」の活用及び利用推進を図るとともに、クラウドサービスの活用に関する研修等の充実に努める。

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
教育支援部	①個別の教育支援計画を作成することにより、教員・保護者・関係諸機関の一層の連携を図る。	①個別の教育支援計画作成に係る個人面談の期間を保障し、保護者との連携を深め、個別の教育支援計画の効果的な作成及び、有効な活用の推進を図る。	A	○前期の個人面談については、面談週間を設けることで、面談及び作成の時間を補償できた。
	②近隣の小・中学校等との交流及び共同学習、地域住民との交流活動の一層の充実を図る。 ③特別支援学校としてセンター的機能の充実を図るとともに、関係諸機関との連携を通して校内支援の充実を図る。	②学校見学会や学校公開が適切な就学や進学、本校の理解推進につながることを目的とし、対象者に確実な案内や情報提供を行う。	A	○今年度より、幼児対象の学校見学会では、本人を除く保護者及び関係者の参加にしたことで、説明や校内見学の保障ができた。 ●学校見学会の校内見学については、見学ルートに休憩所を設けるなどの暑さ対策が必要である。 ○学校公開は放課後等デイサービス事業所からの参加者が多く、好評の感想が寄せられた。 ●学校公開期間中の校外学習の設定や急な授業変更が数件あり、対応に追われた。来年度は、本校職員に目的の周知徹底をし、授業内容の確認を丁寧に行う。
		③児童生徒が抱える諸問題に関する情報共有や検討を目的とする関係機関との円滑な連携推進を図る。	A	○必要に応じて SC や SSW への相談及び支援会議、ケース会議を開催することができた。

## 改善策について

重点目標の番号	改善策

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
自立活動部	①自立活動における実態把握、指導目標の設定、指導内容の設定、指導方法、学習評価、指導改善に関する教師の専門的な知識や技能を向上させ、教職員の自立活動に関する専門性の向上を図る。	①個別の指導計画(自立活動)の作成の仕方・考え方を校内に浸透させること等を通して、課題関連図に基づいた指導計画の策定に係る専門性を向上させる。	B	○4月に教育センターのオンデマンド動画を活用して研修会を実施した他、情報整理シート、個別の指導計画(自立活動)の記入例を改訂し、自立活動の実態把握から指導目標・指導内容設定の考え方について細かい説明を加えた。 ○個別の指導計画作成週間を設定したことで、複数の教師で検討できる時間が確保でき、話し合いを通して指導計画の策定について学ぶことができた。 ●一度の研修会と記入例だけでは、十分に考え方を浸透させるまではいかなかった。
		②昨年度の自立活動の指導に係る力量形成に向けたチェックシートの結果を踏まえ、自立活動の指導方法(必要な指導方法等の理論の理解・選択と活用、授業展開の立案と実践)の力量形成に向けた校内支援を行う。	B	○外部専門家を活用した校内相談会、研修会、報告会を実施した他、時間における指導の実践について、報告会やポータルサイトで情報共有をした。また、教材データベース等、指導に役立つ内容をポータルサイトで提供し、参考にできるようにした。 ○自立活動主任が、相談があった教師を中心に、指導について一緒に考える、一緒に授業するなど校内支援を行った。



	③6区分27項目に照らした児童生徒の実態把握の精度を上げ、児童生徒の課題を明らかにしていくとともに、校内で統一することで小中高の移行を円滑に行うため、校内研究と連携しながら、実態把握のためのチェックリストの改訂を行う。	B	○グループ研究の時間を活用しながら、チェックリスト改訂を進め、一通りチェック項目を作ることができた。 ●チェックリストの改訂に向けて検討すべきことが多く、グループ研究の時間では足りなかった。時間外に担当者が検討をするなどしたが、妥当性のあるチェックリストの項目にするための検討の時間を十分確保することができなかった。
--	---	---	---

## 改善策について

重点目標の番号	改善策
③	分掌部会の進め方を工夫し、年間の分掌部会に掛ける時間を減らすことで、検討の時間を捻出する。捻出した時間を使ってグループ研究の準備を十分に行うことで、グループ研究をより充実できるようにする。

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
舎務部	①学校、家庭、関係機関との連携を図り、健全で楽しい集団生活を送ることができるよう支援する。	①寄宿舎生活の充実に向けた家庭との情報共有と寄宿舎指導員の専門性向上に努める ・寄宿舎生の指導・支援に関する研修を計画的に行い、職員の専門性の向上に努めるとともに、研修成果が寄宿舎生にフィードバックされるような体制作りを行う。	B	○学級担任をはじめ関係機関との話し合いにも参加でき、支援の方法の共通理解ができた。 ○寄宿舎研究に関しては、途中で軌道修正はあったが、研究主任に相談しながら、進めることができた。 ●全員が出勤する日が限られているため、研修に費やす時間が限られ、順調とまではいかなかった。
	②寄宿舎生が安全・安心な生活が送れるよう、十分な対策を立てて指導に当たる。			
	③寄宿舎生の基本的な生活習慣の確立を図り、健康の保持・増進に努める。			
	④寄宿舎生の自主的な活動を促し、個々の能力が十分発揮できるよう、個々の内面の動きや特性に配慮した指導・支援を行う。			

## 改善策について

重点目標の番号	改善策
②	寄宿舍通信を保護者に配付する際、必ず見て欲しい内容の時は、担当職員がマーカーをつけたり連絡帳に改めて書くなど、家庭ごとに判断して対応するようにする。

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
事務部	①児童生徒の安全を守り、社会の変化に対応した教育環境を整備するため、計画的に改修工事を行うとともに、学校の管理運営に要する経費を確保することで、効率的な教育活動が展開できるようにする。 ②適正かつ迅速な事務処理を行うとともに、明るく働きやすい職場環境づくりに努めることで、保護者の信頼に応える。	①関係機関及び校内の連絡調整を密にし、増築工事を円滑に進める。	A	○新高等部棟増築工事期間中は、毎週1回施工者と打ち合わせを行い、校内の教職員に適宜情報を提供するなど、工事を円滑に遂行することができた。
		②安心・安全・快適な教育環境を整備するため、長期的展望に立った改修計画を策定する。	A	○建設後20年が経過し、雨漏りや外壁の劣化が散見されるため、改修の必要性等を策定した改修計画に基づき、関係機関に説明した。その結果、令和7年度からの大規模改修工事に向けた設計費を確保することができた。
		③「チーム事務室」として、働きやすい職場環境づくりに努めるとともに、研修に積極的に参加する。	B	○本年度実施された監査では、大きな事務処理上の遺漏等の指摘はなかった。 ●指名研修は指名された全員が受講できたが、希望研修に参加する職員が少なかった。

## 改善策について

重点目標の番号	改善策
③	事務の効率化を図り、積極的な研修参加に努めていく。